

「我ら学校応援隊」を基本コンセプトに 地域で創る学校教育支援活動

熊本県産山村

活動名

産山村学校運営協議会

関係する学校

産山小学校・産山中学校

活動区分	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）							
土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	2人	110人	14年度	有	有	有	有	
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	60人	21年度	有	有	有	無	
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	37人	32日	有	無	無	無	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
産山小・中学校メディアセンター					19年度	連携なし		
コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	
	平成22年4月1日				15人	113人	11学級	

「産山で教育を受けて良かった」という実感を子供たちが持ち、将来村の豊かな発展に寄与し、あるいは広く国際社会で活躍する有為な人材に育ててほしいという願いのもと、平成19年度から産山村教育改革を始めた。平成19年度、20年度には小中一貫教育特区の認定を受け、平成21年度には教育課程特例校の指定を受ける。また、同年、これまで取り組んできた学社融合事業を学校支援地域本部事業として学校支援組織を再編すると同時に、平成22年度には学校運営協議会を立ち上げた。さらに、平成23年度からは本村の特色ある教育を推進するために必要な授業時数を確保するため土曜授業を開始するに至った。

特徴

【特徴的な活動内容】

学校支援地域本部事業の「広げ隊」（交流コミュニティ）「暮らし隊」（体験コミュニティ）「伝え隊」（文化・安全コミュニティ）「学び隊」（学習支援コミュニティ）は学校と地域が連携して子供たちに「生きる力」を育てていくことを目指すものである。とりわけ「広げ隊」のヒゴタイ交流は、産山中学校とタイ国カセサート大学附属中学校との交換留学生のホームステイや交流に積極的に支援を行ってきており、本年度で28年目に当たる。これは国際社会の一員としての自覚を促す大切な事業であり、地域の支援無くしては成り立たないプログラムと言っても過言ではない。また「暮らし隊」の「子どもヘルパー活動」の支援は、小中学生が独居老人宅を訪れ、話し相手になったり怒ふき等の手伝いをしたりする活動で、本年度で16年目になる。高齢化が進む産山村にとって大切な福祉体験活動となっている。

【実施に当たっての工夫】

産山村教育改革を推進するために様々な特色ある取組を行ってきたが、更に学校と家庭・地域との連携協力による学校行事や授業を行い、産山ならではの特色ある教育を推進するために土曜授業を平成23年度から行っている。土曜授業により、校外学習や体験活動が行いやすくなるとともに、保護者や地域の方の学習活動への参加や支援が積極的にできるようになった。

事業を実施して

産山村教育改革は小中一貫教育と地域と連携した教育による「産山で教育を受けて良かった」とする教育実践である。とりわけ地域が積極的に学校教育に参画することで、村民も子供たちも産山を愛し産山を誇りに思える教育に取り組んできた。この間、「暮らし隊」の「子どもヘルパー活動」が博報賞と学生ボランティア賞、ヒゴタイ交流で西日本国際財団アジア Kids 大賞、小中一貫教育で日教弘論文の全国最優秀賞を、また「学び隊」の読み聞かせボランティアが文部科学大臣賞を受賞した。人口1600人ほどの小さな村ではあるが、産山村の教育改革は着実な歩みが続いている。今後も、産山を愛し産山を誇りに思える教育を目指し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校を実現していきたい。

その他

- ・企業・NPOとの連携・・・小学1・2・3年生を対象にHONDA技研と連携し「環境学習プログラム」を開催。
- ・学習支援・・・尚絅大学と下関市立大学の学生による学習支援（教職ボランティア実習）を実施。
- ・ICT活用・・・ICT支援員にICT機器環境整備、メンテナンス、問合せやトラブル対応を委託。



ヒゴタイ交流（交流生とホストファミリー）



子どもヘルパー活動